

IPO銘柄 ナレッジスイート (3999・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3999	100 株	公募: 24.00 万株 売出: 5.50 万株 (OA4.42 万株)	1,800 円 ~ 2,000 円 (29.8 倍)	いちよし証券

■ 日程



クラウド形式で提供する営業システムを開発

■ 事業内容

クラウド形式で提供する営業システムの開発を行う。クラウドサービスでは、営業活動の商談管理や顧客管理、グループウェアをシームレスに統合したビジネスアプリ「ナレッジスイート」、地図上に情報を蓄積させるモバイル顧客管理クラウドサービスの「GEOCRM」を手掛ける。ソリューションサービスとして自社のクラウドサービスを利用する企業の営業、マーケティングの問題を解決するサービス、導入コンサルやクラウドインテグレーション、WEBマーケティング支援などがある。ストック型のクラウドサービスと違い、フロー型のビジネスとなっている。法人向けクラウドサービス/ソリューション事業の単一業態。

■ 特徴

「ナレッジスイート」は営業活動の可視化とどこでもつながる情報共有性が特徴。ユーザー数無制限で蓄積データ量に応じて月額利用料が変動するストレージ課金モデルを採用しており、顧客は採用費用を低くすることができる。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年9月期の非連結経常利益は前期比13.7%増の1億7,100万円と予想している。「ナレッジスイート」の受注が順調に推移。クラウド型システムの普及、ベンダー増加に伴い中堅・中小企業向けの需要が高まっており、事業環境は良好となっている。

■ 定性分析

クラウド関連でビジネスを展開するベンチャー企業は、IPOマーケットでの人気が高まっている。ユニークで新興市場らしい案件を手掛けることで知られるいちよし証券が主幹事を務めることもポジティブ。KDDI (9433) など大手企業と密接である点もポイント。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は7億円弱。株主にはKDDIやスターティア (3393) に混じってベンチャーキャピタルの名前もある。1社保有でロックアップ条項も付されているものの、見た目ほどの軽量感はない状況にある。

(小泉健太)

■ 類似企業

ナレッジスイート (3999・マザーズ)	予想PER 29.8倍 (仮条件上限)
シャノン (3976・マザーズ)	予想PER —
ソフトブレーン (4779・東証1部)	予想PER 18.2倍

■ 引受証券

いちよし証券、SMBC 日興証券、みずほ証券、SBI 証券、マネックス証券、エース証券、東洋証券、極東証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年9月期(実績)	588	11.3	-14	赤転	-101	赤転	—	—
17年9月期(実績)	790	34.2	150	黒転	147	黒転	69.1	—
18年9月期(会社予想)	885	12.0	171	13.7	156	5.9	67.2	—

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年9月期	10,687	441	340	376	159.5	77.3	6.8
16年9月期	10,687	399	239	376	112.1	60.0	—

※ 17年9月に株式分割(1株→200株)を実施、16年9月期および15年9月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	稲葉 雄一	701,800	30.44
2	KDDI	350,000	15.18
3	スターティア	226,000	9.80
4	ジェイズ・コミュニケーション	166,000	7.20
4	ジャフコ・スーパーV3共有投資事業 有限責任組合	166,000	7.20
6	飯岡 晃樹	116,800	5.07
7	岡原 達也	113,000	4.90
7	柳沢 貴志	113,000	4.90
9	稲葉 貴美子	100,000	4.34
10	DBJキャピタル投資事業有限責任組 合	66,000	2.86

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	稲葉 雄一
取締役(CRMビジネスユニット長)	飯岡 晃樹
取締役(CRMビジネスユニットソ リューション3部長)	岡原 達也
取締役(コーポレートビジネスユニッ ト長)	柳沢 貴志
取締役	古川 征且
取締役	和田 信雄
常勤監査役	浅見 靖則
監査役	太田 諭哉
監査役	三浦 謙吾

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。